そして、平等に与えられた1日24時間をどのように過ごすのか、気持ちを変えてみてはどうでしょうか。それはゆとりですか、顔の見えない携帯電話やIT機器の利用ですか。

自分自身の中には、不信・不平・不満などの『不』が一杯あります。これを取り除くために何をしなければならないのか。また、これを取り除かなければ、まちづくりへの思いや方向付けに対し、直球や変化球が投げられないと思います。

社会を悩ませている困った現象は、『自己愛』の暴走的なところです。

ジーコ監督が言っています。『参加する者の能力を発揮させるには、自由にさせねばならないこともあるし、失敗もする。そこは割り切って成功を待たなくてはいけない』

自分の見える小さなところからまちづくりに寄与しませんか。

この一年で手に入れたもの

渡辺（わたなべ）　玄（げん）くん

（柏木ジュニアーズ野球少年団）

ぼくは3年生から、野球をやってきました。6年生なので、少年野球は最後の年です。

春から優勝を目指してがんばってきたのですが、1勝もあげられませんでした。

シーズン半分が終わった夏休み、甲子園で高校野球が始まりました。

柏木ジュニアーズを卒団して駒沢苫小牧高校でがんばっている鷲谷先輩のことを知りました。その時初めて、『こんな先輩がいたんだな』と思いました。

先輩がヒットを打ち、一生懸命プレーする姿を見て、何だかうれしくなりました。『みんなでがんばって優勝するぞ！』と、とても勇気づけられました。

結局、シーズン後半も1勝もできませんでしたが、目に見えない『何か』をぼくは手に入れたと思います。

中学でも野球を続け、手に入れた『何か』をうまく使って、努力して努力して、がんばりを結果に結びつけたいと思います。

英会話を学ぶ前に……

西巻（にしまき）弘光（ひろみつ）さん（美園町）

地獄谷を訪れた外国人観光客に話し掛けられても戸惑うことが多いので、市主催の初心者英会話教室に通ってみた。

授業そのものは楽しかったが、英語以外のことで若干焦りを感じたことがある。

それは、講師のアンドリュー・ジョンソンさんが、大学で数学の先生に聞いた話です。

「How many petal are around the rose?（何枚の花びらがバラの周りにありますか）」と先生が生徒に聞き5枚のトランプカードを並べました。すると少し間を置いてひとりのお嬢さんが「Four petals（4枚）」と答えました。

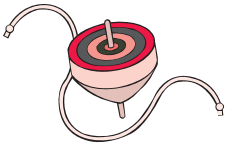
このお話を聞いていた受講生が「わかった」と「2枚」「8枚」「0枚」という声があちこちから聞こえた。いずれも若いOLさんたちからである。

私には、どんな順列・組み合わせになっているのか見当がつかず『オレは算数・数学の才能がゼロなのか』と嘆いたが、頓知問題だと気が付いたのは授業が終わっての帰り道である。

いち早く、ジョークだと気が付いた若者の感性に対して敗北感を味わった。

英語のメニューによるアメリカ家庭料理実習では、中高年の男性諸氏が「オーブンの調子はどうなの」と調理機器の温度調整をさっさと済ませ、慣れた手付きで小麦粉を水に溶かし卵をかき混ぜて、あっという間に見事な大ケーキを作り上げた。

亭主さあらぬとしているようでも、家庭ではきちんと家事手伝いをしているんだ。カミさんが留守の時はコンビニにのみ頼っている者としては、敬意を表しながらただボンヤリと見ているだけであった。

このような柔軟なものの見方や考え方、家庭での働きは英会話など学ぶ以前の問題なんだと思い、少々落ち込みもしたが、この教室で知った自分に欠けているところ、遅れているところは素直に認めなければならない。

新しい年を迎えて、頑張って見ようという気持ちだけはある。